

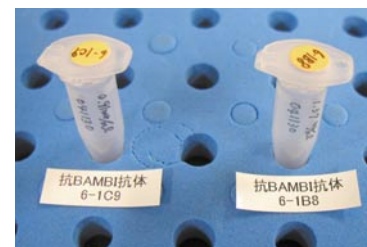
大腸及び肝臓癌の診断・治療用抗体の開発

企業 / 株式会社 サイメディア

研究者 / 秋山 徹 (東京大学 分子細胞生物学研究所 分子情報研究分野 教授)

遠藤 啓吾 (群馬大学 医学部 核医学教室 教授)

大和田 進 (群馬大学 医学部 第二外科学教室 助教授)



抗BAMBI抗体

独創モデル化開始以前に大腸癌及び肝臓癌の発症の鍵をにぎるWntシグナル伝達経路の標的遺伝子を網羅的に検索し、癌細胞で発現の亢進している新規標的遺伝子としてBAMBIを見出してきた。本モデル化では、この標的遺伝子産物に対する抗体を作製して、治療用及び診断用に適用するためのデータ取得を目指した。本モデル化においてマウス及びラットのモノクローナル抗体作製を行い、BAMBI配列特異的抗体を計23種類取得した。その内2種類については、BAMBI発現癌細胞に対して結合性を示し、ヒト臨床標本において癌組織特異的染色性を示した。これらの結果を通して次の成果を得るに至った。本モデル化において用いたモノクローナル抗体作製法により大腸癌細胞に結合し得る抗体が取得できること、本モデル化において確立した免疫組織化学的染色法は癌診断を可能にすること、本モデル化において作製された放射能標識抗体は癌特異的放射線治療に利用できる可能性を示した。